



福王寺だより

早いもので年の瀬であります。今年も「福王寺百年事業」への幕開けの年となり、お寺にも大変重要な年となりました。今後お祈りの場所としてお寺があり続けられるよう、皆さんと共に歩んで参りたい所存です。 合掌

お初穂志納金をお願い

お初穂ってなに？

福王寺では、毎年年度末に「お初穂として」ご寄付のご案内をさせて頂いております。

檀家さんの中には、維持費と間違えられる方がいらっしゃるのですが、お初穂は維持費ではありません。

「お初穂」とは、畑や海で収穫されたいわゆる「初物」を神仏へ捧げて供養する、感謝のしるしです。

福王寺でも、一年の最後に感謝の心を神仏にお供えする機会として、皆様にお初穂をお願いしております。

例年は、三千元から三万円程度、お力、お気持ちに応じて、お供え頂いております。地方の方には振り込み用紙を同封させて頂きます。

百周年事業と重なりますが、一年の思いを込めて、仏様にお供え頂きましたら幸いです。皆さ

まにご本尊様のご加護がありますよう。



人生を楽しむ

先日、友人に紹介された「youtube番組」をみていましたら、たくさんの学びがありました。その youtube 番組は、アフ

リカに絵を学びにいった人の経験の話でした。絵の話ではなく、その人達の生活がとても感動的だったと話しており、何よりもその村の人の言い伝えだと、昔の日本人はこういった暮らしをしていたと、シャーマンだったおじいさんに聞いたと言われておられたそうです。ですので、効率重視の日本人、絵を学びにいった方は「本当に前は日本人なのか」と現地の方から驚かされたようであります。

さて、その村での感動的なエピソードの中で印象的だったものを紹介させていただきます。

ある日、なにか焦っていたのかバタバタしているように周りから見えたのでしよう。こんな風に話しかけられたそうです。
「お前は、二日前のお昼の食事を覚えているか？」。

ちなみに皆さん覚えていますか？ その方は覚えていなかったそうです。そうすると、「そうだろう、あのとき私と一緒に食事をとっていたのにお前は居なかった、きっと覚えていないとおもっていた」と言ったそうです。

きっと何か考え事をしながら食事をしていたのか、眼の前にある食事に目をむけずに時間を過ごしていたのでしょうか。私もよくある話です。

しかし村長はこのように言ったそうです。「そんなことでは、お前の人生は義務的におわってしまふ、人生をただこなして生きて終わってしまふ。」と言われたそうです。食事に目を向けて、一緒に食べられる喜びを分かち合い、良い時間を過ごすことをとても大切にしているのです。

近年「ウェルビーイング」という考えを経済に入れていこうという動きがありますが、昔呼んだ本が思い出されず、アラブの商人のお話です、アラブには

値切る文化があります、物を買うのに交渉しなければなりません。大変面倒なことだなど私達は思うのですが、ペルシャ絨毯の商人がこんな話をしていました。日本人は寂しい、表示した料金で絨毯を買っていきなると、本当は値切りの交渉の中で、どこの地方の



染料が良かった、どんな職人が一生懸命作っているなど、物の価値を解ってもらい、その絨毯を大切にしたいという願いがある、そしてそんなやり取りがとても素敵な時間となるのにと。

まさにウェルビーイングっぽいと思います。食事でも買物も、すべて効率ではなく、そこに人間らしさや幸せを入れていく経済って難しそうだけど、とても素敵だなどと思います。

あつという間に年の瀬ですね、一度きりしかない人生、今あるものに感謝して、人生をこなすだけでなく、味わって生きて行きましょう。 合掌

行事のご案内

十二月二十一日 十一時

「納め大姉」

今年最後のお大師様の縁日です。

福王寺婦人部中心でお参りしております。是非お参りください！

一月一日 午前零時

「修正会」 (初詣)

新しい年に際し、檀信徒皆様の一年の幸せを祈る御祈願をしております。

深夜1時半頃まで開けてます、お気軽にお参りください。

「節分・厄除け祈願、各種祈願」

二月四日(日)

福王寺 午前十一時

二月十一日(日)

北見別院 午前十一時

檀信徒問いませんで、お誘いあつてご参加ください。

